

中部横断自動車道整備進捗状況等

令和2年8月19日

国土交通省 関東地方整備局

甲府河川国道事務所長 濱谷 健太

1. 中部横断自動車道の進捗状況について

南部IC～下部温泉早川IC (2工区) の開通見通しについて

- 南部IC～下部温泉早川IC間の切土工区については、硬岩・軟岩が混ざり合った複雑な地形・地質で施工を行っており、構造を見直すなど必要な対策を講じて工事を実施。
- 一部工事においては、死亡事故などによる中断があったが、現在は全ての工事が再開。
- 南部IC～下部温泉早川ICについては、想定以上に工事が難航する中、工事を進めており、2021 (R3) 年夏頃の開通を目指し改良工事や舗装工事を推進。引き続き安全に配慮しつつ、早期開通に向け工事を推進。



2021 (R3) 年 夏頃 開通予定



連絡路については、2020年内に完成予定



大規模切土工区の掘削状況 (大島地区)



トンネル インバート工施工状況 (下八木沢第一トンネル)

2. 「道の駅」第3ステージについて

I 新たなコンセプト

第1ステージ（1993年～）
『通過する道路利用者の
サービス提供の場』

第2ステージ（2013年～）
『道の駅自体が目的地』

1160駅に展開

全国法人の始動

第3ステージ（2020～2025年）

『地方創生・観光を加速する拠点』へ
＋
ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速します。更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献します。

新たな「道の駅」ネットワーク



第3ステージの概要



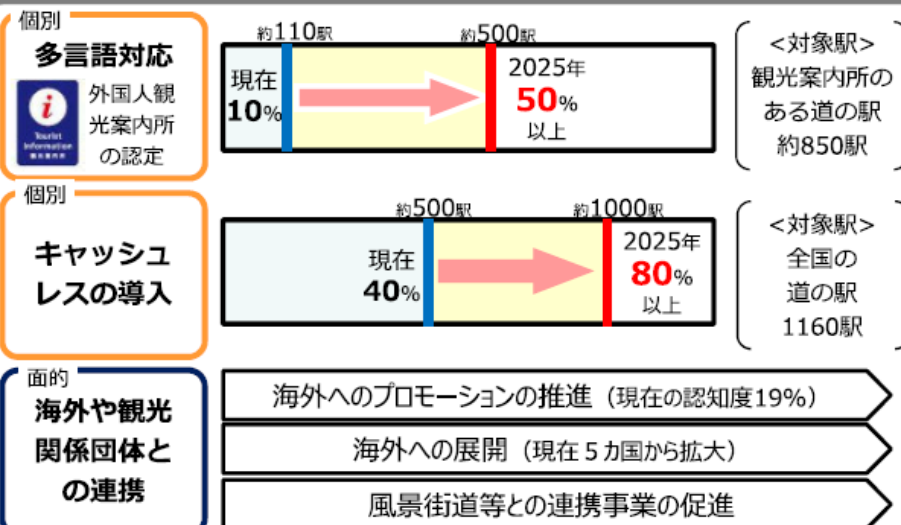
II 「2025年」に目指す3つの姿

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

- 海外へのプロモーションやプロジェクト展開を国が推進し、「道の駅」は世界ブランドに。多くの外国人が新たなインバウンド観光拠点となった「道の駅」を目指し日本へ。
- 「道の駅」では、国や連絡会の支援も受けて、多言語対応やキャッシュレスなど基本サービスを用意。地域の文化体験など地域ぐるみでの受入環境も充実。周辺の「道の駅」や観光施設、風景街道などが連携して周遊観光ルートを創出。
- バス、自転車、レンタカーなど周遊の交通拠点としての役割も発揮し、日本の隅々まで旅行を喚起。多様な交通手段と地域、観光施設情報等がまとめて提供されるサービス（観光MaaS）の導入も始まり移動が活発化。



主な取組目標



現在：ベトナム、タイ、カンボジア、アルメニア、エルサルバドル 今後：インドネシアで予定

出展：新「道の駅」のあり方検討会提言（令和元年11月18日）

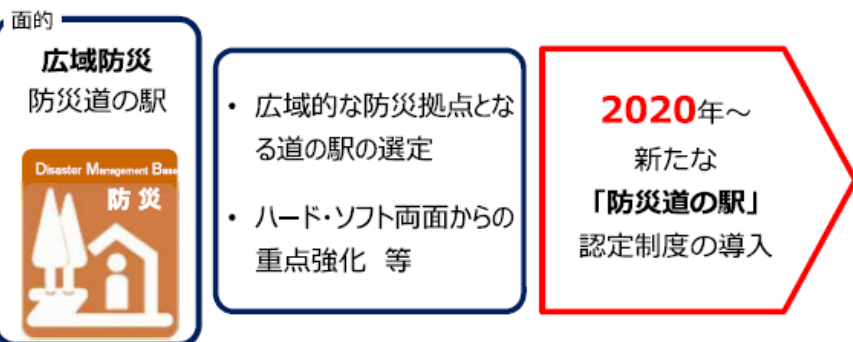
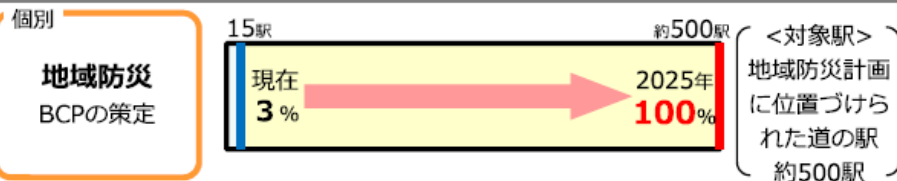
Ⅱ 「2025年」を目指す3つの姿

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

- 広域的な防災機能を担うため、国等の支援を受けてハード・ソフト対策を強化した「防災道の駅」を新たに導入。地域住民や道路利用者、外国人観光客も含め、他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供。
- 各「道の駅」でも、地域の防災計画に基づいて、BCPの策定、防災訓練など災害時の機能確保に向けた準備を着実に実施。
- これら「道の駅」の活動情報は、災害時に国、自治体、連絡会等でいち早く共有。関係機関の支援も受けながら、道の駅が地域の復旧・復興の拠点として貢献。



主な取組目標



3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

- 「道の駅」を舞台に、地域の課題解決や民間とタイアップした「地域活性化プロジェクト」が、ボランティアを含めた様々な団体との協働や、全国連絡会等が橋渡しを行いながら、全国各地で盛んに実施。
- 地域の子育てを応援する施設の併設や、高齢者の生活の足を確保するための自動運転サービスのターミナルとなるなど、あらゆる世代が「道の駅」で活躍するための環境を提供。
- 多くの学生達が、「道の駅」でインターンとして業務を経験したり、実習に訪れ、地域の特産品をいかした商品開発に取り組み、全国コンテスト優勝を目指して奮闘。



主な取組目標

